

ま え が き

この『横浜国立大学留学生センター紀要』は、1994年（平成6年）1月に第1号が発行されて以来4年目を迎え、ここに第4号が刊行される運びとなった。1年に1号のペースである。継続性と恒常性という、学術定期刊行物としての大切な必要条件が満たされ確立されたと言ってよからう。

留学生センターの専任教官は昨年（平成8年）新たに1名が着任し計7名となり、センターはかなりの大きさを持つ組織となった。さらに、概算要求中の短期留学担当の教官定員が認められることになれば、9名となる。本学における教育研究機構の中で6番目の規模をもつものとして、より大きな役割と責任を果たすことが要請されまた実際にそうなりつつあるのである。

このような中でセンターの教官は日本語等の教育あるいは留学生の生活指導のほか、それぞれの専門領域の研究を進めている。学外の方々のものを含め、そうした研究の成果の一端がここに集められている。目次にあらわれているように内容は多岐にわたる。日本語教育の方法あるいは効果に関するもの、コミュニケーションや日本語表現の研究、文化史的領域の論考、等々である。執筆者が専任教官に限定されていないことは、センターの開明・開放志向の一端を示している。この紀要が多くの人々によって読まれ、横浜国立大学留学生センターの学術研究面における交流がますます拡大していくことを信ずるものである。

横浜国立大学留学生センター長

山下正毅